

第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 a, 鎌倉幕府の滅亡

① 朝廷内の相統争い

後嵯峨天皇の死→後深草天皇系([1 持明院]統)と亀山天皇系([2 大覚寺]統)の相統争い
→幕府が調停し[3 両統迭立]をきめる。

両統迭立…天皇家内部の相統争いに際し、[4 持明院]統と[5 大覚寺]統の両統が、6交互に

天皇に即位するという幕府が定めた調停策

② 鎌倉末期の対立

基本…勢力を拡大してきた[7 武士]が、いっその勢力拡大をめざす
→[8 荘園]への攻撃。=[9 悪党]*の活動活発化など(→貴族などの不満高まる)
→[10 荘園領主]に妥協的で、多くの[11 武士]の要望に応えない[12 幕府]への反発
→武士同士の対立の激化(→相手側の動きもみて、態度を考える)

*悪党とは[13 畿内]や周辺で、武力によって年貢納入を拒否したり、荘園領主に抵抗したりした地頭や非御家人などの[14 新興武士]。[15 楠木正成]らもこうした人物の一人と考えられる。

朝廷・[a. 荘園領主] (寺社・貴族)	↔	在地領主([b. 武士]) …「地頭非法」など発生
北条得宗家([c. 御内人])	↔	一般御家人 …窮乏・[d. 荘園領主]への対応 有力御家人([e. 足利]・新田)…不遇
鎌倉幕府	↔	[f. 悪党] (楠木・名和など)・非御家人・西国御家人
惣領家	↔	非惣領家 …[g. 家督相続]争い・家臣団の対立と結合
[h. 持明院]統	↔	[i. 大覚寺]統 …天皇家の分裂(←幕府の策動)
武士	↔	武士 …[j. 所領]争いなど

→北条得宗家独裁体制への反発と現状変革への要求高まる
執権・北条[16 高時]—長崎高資(内管領=御内人)

③ [17 後醍醐]天皇([18 大覚寺]統)の親政

19 天皇中心の政治の復活(記録所の設置など)=倒幕をめざす。[20 延喜天曆の治]を理想
1324 [21 正中]の変 失敗
1331 [22 元弘]の変 →天皇、[23 隠岐]へ流され、持明院統の光厳天皇が即位

④ これをきっかけに畿内で悪党ら蜂起([24 楠木正成]・赤松—護良親王)

地方武士団の蜂起(菊池など)
後醍醐天皇の隠岐脱出

↓
[25 足利高氏]の反乱→[26 六波羅探題]を攻撃

[27 新田義貞]の反乱→[28 鎌倉]を攻撃=鎌倉幕府滅亡([29 1333]年)

京都では皇室が時明院統と大覚寺統に分かれて対立、幕府の調停で両統が交代で皇位につく[30 両統迭立]が行われた。このようななか、大覚寺統から即位した[31 後醍醐]天皇は積極的に天皇の権限を強化、1324年には討幕の計画を進めたが失敗した([32 正中]の変)。天皇は1331年にも挙兵をくわだてたが失敗([33 元弘]の変)、天皇の地位を奪われ隠岐に流された。

しかし、各地で反幕勢力が蜂起、後醍醐天皇が隠岐を脱出すると、畿内に派遣された有力御家人[34 足利高氏]が幕府にそむき六波羅探題を攻撃、関東では[35 新田義貞]が鎌倉を攻撃、[36 1333]年、鎌倉幕府は滅亡した。

b、建武の新政

① 後醍醐天皇の親政=[37 建武の新政]…天皇中心の国家再建をめざす
幕府・院政・摂政関白を否定

② 建武の新政の基礎=公武の対立の上に成立

「公」=貴族・大寺院ら[38 荘園領主]

「武」=有力御家人(足利・新田)

悪党・西国御家人・地頭ら[39 地方武士](楠木・名和・赤松ら)

③ 機構 特徴=主要な役職を[40 公家]が占める。

[41 記録所]=最高機関

[42 雑訴決断所]=所領などの訴訟(鎌倉幕府の[43 引付衆]を受け継ぐ)

恩賞方(恩賞事務)、武者所(警備—頭人 新田義貞)

地方…[44 国司]と[45 守護]の併存

鎌倉將軍府・陸奥將軍府=小幕府的存在、天皇の皇子を派遣

④ 後醍醐天皇の政治=46 天皇中心の政治の実現をめざす =武士への配慮に欠ける

・土地所有権の変更=天皇の[47 綸旨]による裁断を必要とする

・恩賞も天皇の側近や[48 公家]中心、大内裏の造営=地頭らに1/20税をかける

↓↑

武士には[49 恩賞]があまりなされず、ときには本領すら安堵されない

→武家社会の慣習を無視する

社会の混乱続く=[50 二条河原落書]はこのような様子を風刺

⑤ [51 諸国の武士]らの不満の高まり→抵抗・反乱→武士らの信望、[52 足利尊氏]に集中

↓

1335 [53 中先代]の乱をきっかけに尊氏、鎌倉で挙兵

北条時行 →いったん敗れ九州に逃れるが、再び力を取り戻す